

Glacial Action News

ローカル×グローバル
高校生の新たな学び方

令和7年度

課題研究報告会

令和6年度 岡山学芸館高等学校

課題研究報告会



机上の空論を 飛び越えろ！

年度末の集大成！ 大舞台で行う全校課題研究報告会

今年の課題研究報告会のテーマである『Envision～深化するワクワク感～』に相応しい個性的な190もの研究テーマのうち、選ばれた7つのグループがハレノワにて堂々たる発表を行いました。1年間かけた研究はどのテーマも社会的あるいは学術的に意義深く、発表後の質疑も活発でした。先輩たちの素晴らしい発表を見た後輩たちが次はどんな課題研究を披露するのか、ワクワクが今から止まりません！

課題研究広報誌 令和7年度 2025年7月1日発行
岡山学芸館高等学校課題研究運営部
〒704-8502
岡山市東区西大寺上1丁目19-19 ☎086-942-3864

ご覧ください！

岡山学芸館高等学校 課題研究 Instagram
<https://www.instagram.com/ggk.kadaikenkyu/>



学校法人 森教育学園

岡山学芸館高等学校



学校法人 森教育学園

岡山学芸館清秀中学校・高等部

自分自身の興味関心を探究し、将来の進路選択に活かす！ グローバル課題研究の3年間の学び

岡山学芸館高校の課題研究では、「これからの地域社会を創造するグローバルリーダーシップの育成」を目的として授業が展開されています。高校1年生では確かな分析力と課題発見力、そして自身の興味関心について認知していき、高校2年生では行動力・実践力を発揮していきます。こうしてグローバルマインドを育み、高校3年生では自身の進路について内省し、将来に活かしていきます。



1年 研究手法の習得

- ・自己探究
- ・探究スキルの取得
- ・課題の認識と発見

2年 課題研究活動

- ・テーマ別課題研究
- ・実践活動の必須化
- ・国内外フィールドワーク

3年 まとめと振り返り

- ・探究の振り返りと発信
- ・進路探究

地域の社会課題解決

岡山東備地区の課題

岡山市・瀬戸内市・備前市・赤磐市



- ・地方の国際化
- ・都市計画・まちづくり
- ・生物多様性
- ・都市交通
- ・人口減少
- ・環境負荷軽減など

岡山から世界へ

グローバル
リーダーシップ

世界から岡山へ

世界の社会課題解決

世界・グローバルな課題

カンボジア・フィンランド・インドネシア



- ・途上国教育問題
- ・環境汚染問題
- ・経済に関する問題
- ・保健医療問題
- ・女性と社会の問題
- など

高校1年生の課題研究の特徴は、すべての科コースをシャッフルして課題研究の授業用のクラスを再編成することです。こうしてクラスや科コースの枠を飛び越えることで多様な価値観を共有し、協調性や協働性を育てていきます。授業では自主性と積極性に重きを置き、生徒自身の考えを伝えるアウトプット型の展開が主となります。課題研究を行う上で重要となる探究スキルの修得のため、正しいデータの入手法やその読み取り方、パワーポイントでのまとめ方などについても取り組みます。やがて自分自身が何に興味関心があるのかを突き詰める自己探究を行い、ゼミ選択に備えていきます。

す。今年度は2学期より、希望に応じて22のゼミに分かれていきます。



高校2年生では生徒は自身の興味関心と将来の進路選択に応じて、22ゼミの中から1つを選択して研究を進めます。各ゼミでは生徒がゼミ長を務めて生徒主体でゼミ運営をしていきます。学校外にも積極的に飛び出して

フィールドワークやヒアリングを実施するなど、実践活動をしっかり行い研究の質を高めていきます。年に数回ユニット内発表会を実施し、第三者の意見をもとに自身の研究をブラッシュアップしていきます。1月末には全校規模で学内発表会を行い、ここでの優秀な発表グループは2月にハレノワ(岡山芸術創造劇場)での発表の場が与えられます。こうした2年間の課題研究の学びを通して、自身の進路に向けて自信を持った選択ができるようになっていき、高校3年生からの進路探究に活かしていきます。



高校1年生の後半から2年生にかけて、生徒は自分の興味を反映した分野のゼミに参加し、課題を発見して解決策を導き出す方法を磨きます。昨年度の研究テーマは190にも上りました。ゼミでの活動成果は国内外のコンテストで広く発信され、大学での研究にもつなげることができるように、高校生のうちから深い探求心を養うことを目指します。

教育系ユニット

学習成果・部活動探究ゼミ 小学校教育ゼミ 幼児教育ゼミ

教育系ユニットは将来学校の先生やトレーナー、幼保の先生を目指している生徒に向けたユニットになります。「学習成果・部活動探究ゼミ」では、日常的に関わる学習活動や部活動に関する疑問をテーマにして、トレーニング効果やメンタル面の問題などを中心に幅広い研究を行っています。活動を通じて、学習や部活動の改善点を見つけ、効果的な方法を探求しています。「小学校教育ゼミ」は地元の小学校と協働してSDGsについてワークショップを中心に授業展開しています。「幼児教育ゼミ」では、今年度「食育」「音



や色の嗜好」「保育士不足問題」「産後うつ」などのテーマを取り上げ、それぞれの課題に取り組んでいます。子育てや幼児教育に関するさまざまな環境を分析し、子どもが健全に育つ社会を実現するために、自分たちにできることを模索しています。

人文社会系ユニット

経済政策ゼミ 法律司法ゼミ 歴史ゼミ 言語コミュニケーションゼミ

人文社会ユニットには、「法律司法ゼミ」「経済政策ゼミ」「歴史ゼミ」「言語コミュニケーションゼミ」があります。法律司法ゼミでは、憲法や刑法などの基礎を学び、社会現象を法律的に捉える能力を養います。高校生にとって身近なテーマを設定し、実際に研究を行うことが特徴です。経済政策ゼミでは、現代社会の問題を解決するために必要な政策を経済学の知見を活かして研究し、より良い未来をつくる力を育てます。また、「日経STOCKリーグ」に参加して金融・経済



学の実践的な理解を深めています。歴史ゼミでは、弘法大師ゆかりの地に息づく住民意識をアンケートやインタビューを通じて調査し、地域の歴史や文化を探ります。言語コミュニケーションゼミでは、外国語の習得からAIによる文章生成、言語障害や点字などの福祉に至るまで、幅広い言語に関連するテーマを研究しています。

科学系ユニット

デジタルものづくりゼミ 自然環境調査ゼミ 物質科学ゼミ 海洋教育ゼミ

科学系ユニットには、主に理系の生徒が所属するゼミがまとまっています。「デジタルものづくりゼミ」では、専用マイコンボード「スペースブロック」を使用して、プログラミングを駆使して身近な課題を解決するためのシステム開発に挑戦します。岡山大学とも連携し、試行錯誤を通じて思考力や創造力を育みながら、今年度は「服薬管理システム」や「ヒートショック警報器」などの開発に取り組んでいます。「自然環境調査ゼミ」では、フィールドワークを通じて自然環境の課題



解決に取り組み、田んぼの土壌とタニシの関係性、作物の収穫量と気温の関係性、アリの社会性についてなど、さまざまな研究を行っています。「海洋教育ゼミ」では、海洋に関する研究が行われ、アマモの保存・育成方法やその利用法、またカニの行動生態学の研究を進めています。

創造系ユニット

デザイン活用ゼミ 音楽活用ゼミ ビジネスアイデアゼミ

創造系ユニットは、無形有形問わず、新しいモノをつくり出すゼミで構成されています。「デザイン活用ゼミ」では、インテリアデザインやユニバーサルデザイン、色彩を活かしたプロダクトデザインを通



じて、自分の関心に基づいた研究を行います。「音楽活用ゼミ」では、音楽が与える影響や音楽と人との関係性について深く研究します。「ビジネスアイデアゼミ」では、実際に企業と協力してアイデアを試し、ただの調べ学習にとどまらない実践的な学びを目指します。「売上アップ」や「売れ残りを減らす」など、ビジネスの改善点に取り組んでいます。

地域協働系ユニット

地域活性化ゼミ 地域観光ゼミ 社会福祉システムデザインゼミ

地域協働系ユニットの「地域観光ゼミ」では、観光を通じて地域活性化の方法を考え、高校生のアイデアを観光振興やまちづくりに活かすことを目指します。「地域活性化ゼミ」では、西大寺をはじめ



とする地域への調査や提案を行い、地域活性化協議会や甲南大学との継続的な活動を展開しています。「社会福祉システムデザインゼミ」では、持続可能な福祉社会の形成を目指し、高齢者と子どもの交流を深める三世代交流の場を作りながら、音楽療法やアニマルセラピーを取り入れた活動を通じて、地域全体で支え合う社会の実現を目指しています。

国際系ユニット

国際協力と多文化共生ゼミ 戦争と外交ゼミ カンボジア探求ゼミ

国際系ユニットには、「戦争と外交ゼミ」と「カンボジア探求ゼミ」そして「国際協力と多文化共生ゼミ」があります。およそ国際系に興味を持った生徒の学びを追求することができます。戦争と外交ゼミ



では、現代の国際社会で起きている問題の原因を多角的に分析し、平和な社会の構築に向けた方法を考察します。カンボジア探求ゼミでは、年1回の現地調査を通じて、より良い社会の実現に向けて調査や仮説検証を行います。「ごみ問題」や「教育」「少子化」など、カンボジアの課題を通じて、海外から見た日本の問題について考える機会も提供されます。

スポーツと健康系ユニット

スポーツ社会ゼミ 医療看護・養護と保健ゼミ

スポーツと健康系ユニットには、将来スポーツを通じた健康増進・社会貢献を目指す「スポーツ社会ゼミ」と、医学・薬学・看護・リハビリなどの医療の道や、心理カウンセラーや養護教諭につながる研究に取り組む「医療看護・養護と保健ゼミ」があります。人々を「肉体的」にも「精神的」にも「社会的」にも健康な状態に導く取り組みに挑戦します。



EIGOKAゼミ

英語科は2年次の1ヵ年の海外留学中も日本からオンラインサポートを受けながら課題研究を進めます。グローバルな視点や異文化体験を活用した独自性のある活動が特徴です。



高校生である私たちに何ができるのかを考える

カンボジア フィールドワーク



7月には「医療」や「看護」をテーマに、12月には「支援」や「教育」をテーマに、高校生の希望者を対象に、9日間のカンボジア研修を実施しています。この研修では現地の人たちと協働して活動する機会が多く、多くの学びを得ることができます。これから発展をしていくカンボジアという国の現状を目にし、そこにある課題について深く考えていく



研修プログラムとなっています。

「カンボジア=かわいそう」というイメージがあるかもしれませんが、事実として、カンボジアには貧困や歴史的な悲劇といったイメージがつきまといいますが、それはこの国のほんの一面でしかありません。

実際に現地に足を運んでみると、そこには“支援される側”という枠に収まらない、力強く、エネルギーに生きる人々の姿があります。豊かな文化、驚くほどの笑顔、前向きなエネルギー。教科書やニュースでは決して伝わらない「本当のカンボジア」をみることができます。研修では現地の保育園や孤児院、小学校や高校への訪問を通してカンボジアの教育について知り、NPO 法人や NGO などと関わることで、それぞれの立場の支援について深く考えていきます。病院にも訪問してカンボジアの医療制度についても、実際に現場をみて学ぶことができます。

この研修は、ただの海外体験やボランティアではありません。生徒自身の価値観に問いを投げかける「学びの旅」となります。固定観念に縛られない、新しい視点を得たい方へはぜひ参加してみましょ。貴重な学びと一緒に得ましょ。

得られた経験を全国の高校と共有するカンボジア合同研修会

毎年1月の上旬には1泊2日でカンボジア合同研修会が実施されています。これは本校と同様、カンボジアなどへの開発途上国への海外研修がある高校が一同に会する研修会で、大学教員を招いて共通テーマについてじっくりと考え、議論を通じて学びを深めていきます。参加校は東京や和歌山、広島の高校など多岐にわたり、今回は東京で開催され、「貧しさの中における教育とは何か?」というテーマで考えを深めました。



DXハイスクールの取り組み紹介

岡山大学 DS 部 ～生成 AI セミナーを開催～

6月に高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」活動の一環として、「生成AIセミナー」を高校2年生のSMV組(情報Ⅱ履修者)に向けて実施しました!授業を担当してくれたのは岡山大学データサイエンス部(DS部)に所属する学部生と大学院生の合わせて6人で、文理問わず必要な生成AIの活用方法についての知識を広げる目的で行われました。

セミナーでは、生成AIの基本原理に加え、個人情報、秘密情報の入力に注意が必要なことや、ファクトチェックの必要性など、生成AIを活用するうえで重要な事項、プロンプトのノウハウのほか、パーソナライズなどの応用に至るまでの講義の後、「朝ごはんは集中力の関係を明らかにするアンケート」の作成を題材にしたグループワークを行いました。参加した生徒からは「進化した生成AIを活用するためには“人間として”どのような点に注意すべきか」といった問いかけがあり、DS



部の皆さんとの対話を通じて共に考えていました。2時間半のセミナー後も熱のこもった対話は続き、非常に学び多い会となりました。

今後も岡山大学DS部と協働して希望する生徒を対象に、『3Dプリンターハンズオン講習』や『スマホ“解剖”実習』などの特別講義も展開していく予定です!

東京での 四校課題研究交流会



昨年の7月に一泊二日で東京の私立高校3校(順天高等学校、郁文館グローバル高等学校、上野学園中学校・高等学校)と課題研究についてお互いに発表し、質疑応答をする学びの会を実施しています。完成された研究を披露するのではなく、研究の途中段階で交流を行うことで今後の研究の方向性や課題点など、多くの点で気づきが得られます。初日の発表で得られた課題についてはその日の夜にブラッシュアップし、翌日の交流会に活かします。



兵庫県立御影高等学校との 課題研究交流会



兵庫県立御影高等学校とは令和5年度から年2回、夏と冬に課題研究交流会を実施しています。夏の交流は神戸で実施しており、お互いの研究の途中段階をそれぞれ披露します。これにより、研究の方向性について様々な気づきを得ることを目的としています。冬の交流は本校の明道館で実施しており、両校の代表生徒が企画・運営に至るまで担当して交流会を作り上げていきます。

